

科目名	メディア情報工学実験Ⅲ	英文表記	Media information Engineering Laboratory III	2017/3/13			
科目コード	3307						
教員名: 姉崎 隆				作成			
技術職員名: 釣 健孝							
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数			
メディア情報工学科	3年	必	履修	2単位			
授業形態	授業期間						
実験	通年						
科目目標【MCC目標】	マルチメディア機器のデジタル回路を題材とする回路の実験を通して、デジタル回路の設計、実装に関する理解を深める。また、実験内容を自分で理解し、必要な実験システムを自ら準備したうえで回路検討を行って実験できるようにし、講義で学んだ内容について実験実習を通じて理解を深める。 【V-C-8】【V-D-3】【V-D-8 メディア情報処理】【VI-D】【VI-C】						
総合評価	報告書の提出/受付(50%)および実験方法に基づいた適切な実験を行えたか(50%)の合計点で評価する。実験経過の回路提出(毎週)も後者に加味する。						
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
	20%	① 実験内容やその理論的背景を理解できる。	提出報告書および毎週の実験内容で評価	理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック
	20%	② 実験結果を客観的に考察する能力を習得する。	提出報告書および毎週の実験内容で評価	実験内容やその理論的背景を理解し、実問題に対して適切に適用ができる。	実験内容やその理論的背景を理解できる。	実験内容やその理論的背景の基礎を理解できる。	
	20%	③ 工学実験の報告書の執筆方法を習得する。	提出報告書および毎週の実験内容で評価	実験結果を客観的に考察し、実問題に対して適切に適用ができる。	実験結果を客観的に考察し、適用ができる。	実験結果を客観的に考察するための基礎を理解できる。	
	20%	④ FPGA開発ツールを用いたデジタル回路の設計、実装が理解できる。	提出報告書および毎週の実験内容で評価	工学実験の報告書の執筆方法を習得し、実問題に対して適切に適用できる。	工学実験の報告書の執筆方法を習得し、適用ができる。	工学実験の報告書の執筆方法を理解できる。	
	20%	⑤ マルチメディア機器のデジタル回路が理解できる。	提出報告書および毎週の実験内容で評価	FPGA開発ツールを用いたデジタル回路の設計、実装を理解し、実問題に対して適切に適用できる。	FPGA開発ツールを用いたデジタル回路の設計、実装を理解できる。	FPGA開発ツールを用いたデジタル回路の設計、実装の基礎を理解できる。	
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	＜本科教育目標＞ (3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する		
	○		◎				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(講習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目				50	50	100	
基礎的理解	①②③④⑤			25	25	50	
応用力(実践・専門・融合)	①②③④⑤			25	25	50	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)							
主体的・継続的学修意欲							
授業概要、方針、履修上の注意	最近のほとんどの家庭用電化製品、産業用機器、情報機器の中にはマイコンを中心とするデジタル回路が組み込まれている。中でも論理をプログラミングできるIC(すなわちFPGA)の発展で、回路を最適かつコンパクトに設計するため、デジタル回路の知識は重要となっている。 本実験では、論理をプログラミングする手段としてFPGA開発ツールを導入する。さらに、マルチメディア機器のデジタル回路を題材とする回路の実験を通して、デジタル回路の設計、実装に関する理解を深める。また、実験内容を自分で理解し、必要な実験システムを自ら準備したうえで回路検討を行って実験できるようにし、講義で学んだ内容について実験実習を通じて理解を深める。同時に、工学実験の報告書の書き方を習得する。						
教科書・教材	都度、教材(テキスト、資料)を提示する。 参考書 : VHDLで学ぶデジタル回路設計, 吉田たけお/尾知 博 共著, CQ出版						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	概要	2	本授業のシラバス説明		
2	FPGA開発ツールの導入	2	デジタル表示/数の一般式		
3	HDL基礎	2	基数の変換/補数		
4	画像デジタル機器と回路	4	画像の入力および表示のためのデジタル回路を実装し、回路の基本的な動作確認をおこなう。		
5					
6					
7	基本I/O制御と回路	10	スイッチやLEDライト、文字表示等、基本的なI/O制御のためのデジタル回路を作成し、動作確認をおこなう。		
8					
9					
10					
11	数体系と演算回路	10	基数の変換および数値表示のためのデジタル回路を作成し、動作確認をおこなう。		
12					
13					
14					
15					
期末	期末試験				
16	フリップ・フロップ回路	10	ラッチ、フリップ・フロップ、レジスタのためのデジタル回路を作成し、動作確認をおこなう。さらに、タイミングシミュレータの取り扱いを学ぶ。		
17					
18					
19	カウンター回路/時間表示回路	10	ラッチ、フリップ・フロップ、レジスタのためのデジタル回路を作成し、動作確認をおこなう。カウンタのためのデジタル回路を作成し、さらに、文字表示のためのデジタル回路を作成して時間表示させ、動作確認をおこなう。		
20					
21					
22					
23	総合回路	10	習得した回路を総合し、さらに発展的なマルチメディア機器のデジタル回路を作成し、動作確認をおこなう。		
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
期末	期末試験				
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間	
①					
②					
③					
備考欄					
(各科目個別記述) ・この科目の主たる関連科目はデジタル回路(2年)、デジタルシステム設計(4年)、制御とロボット(5年) (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容 その到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) ...					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)

前期科目は前期部分のみ記述、後期部分は後期のみ記述し、実施期間が見た目す
ぐにわかるようにする。(開講しない時期は空欄)